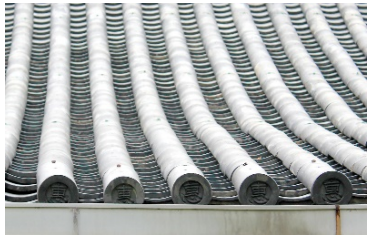
市民古代史の会・京都

2022年7月17日

瓦で見る　中国と朝鮮半島と倭国

瓦の文様は、時代の変遷で変化していて、そこから遺跡の編年ができると報告されている。
ここでは瓦文様から、中国・朝鮮との関係と、七世紀の我が国の歴史を考えてみます。



１、古代瓦の変遷と飛鳥寺院

・古代寺院の創建年代は瓦から推察される

２、中国および朝鮮半島における　古代瓦の変遷

・素弁蓮華文様は南朝梁から百済を経由して伝わった

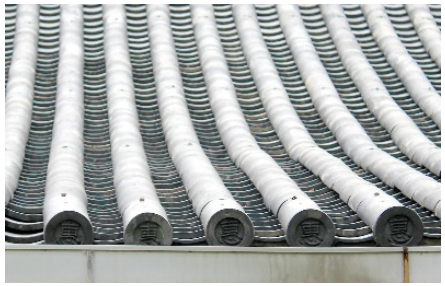
３、北九州の七世紀瓦編年に異論を呈する

1、古代瓦の変遷と飛鳥寺院

茅葺き屋根
板葺き屋根

600年前後
飛鳥時代？

瓦葺き屋根



そのすべてが、素弁蓮華文軒丸瓦
素弁蓮華文であれば600年前後創建の寺院

福岡県の例を除き、すべて寺院

石田茂作氏『飛鳥時代寺院址の研究』の紹介　聖徳太子奉讃会 1936年（1977年復刻）

『日本書紀』推古32年（624）9月
寺及僧尼をかぞえて、つぶさに其寺所造之縁をしるし、亦僧尼の入道之縁及び得度之年月日をしるす。
是時にあたりて**寺46所有り**、僧816人・尼569人、併せて1385人有り。

我国に仏教が入ってきた時の、最も初期の寺院になります。

①古代寺院の創建年代は瓦から推察される

石田茂作氏『飛鳥時代寺院址の研究』の紹介

①１つの寺院址に複数の時代を隔てた様式の瓦が出土するが、
その内の**最も古い様式＝創建瓦**と考える。

瓦は普通50～100年で朽ち、その都度葺き替えされるので、時代を隔てた瓦が出土する。

②飛鳥寺址出土の**素弁蓮華紋軒丸瓦**は百済夫余出土と同形式。
飛鳥寺は日本書紀より596年創建（？）と見られることから、
素弁軒丸瓦が出土すれば飛鳥時代**（600年前後）**の創建と見る。

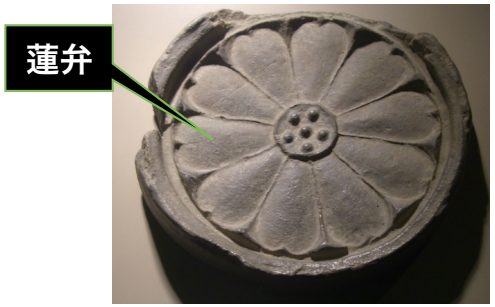
③山田寺は日本書紀から641～643年の建立と見られる。
ここから**単弁蓮華紋軒丸瓦**が出土する。
単弁軒丸瓦が出土すれば飛鳥時代末**（7世紀中葉）**の創建と見る。

④川原寺、法隆寺西院で**複弁蓮華紋軒丸瓦**が出土している。
石田氏は後者を飛鳥末、前者を白鳳時代とし、
複弁軒丸瓦は時代をまたぐ**（7世紀後半）**様式と見る。

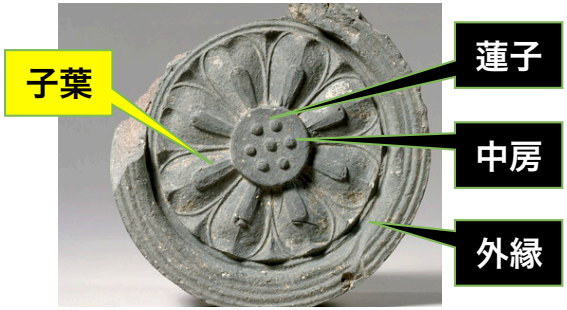
＊飛鳥時代創設の寺院であると判断した基準＊

石田氏の基準を私なりに解釈

素弁蓮華文軒丸瓦

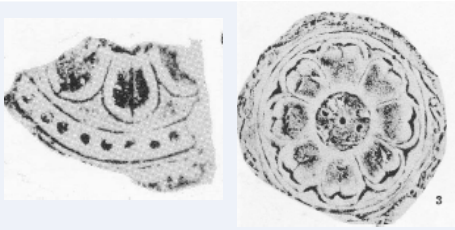
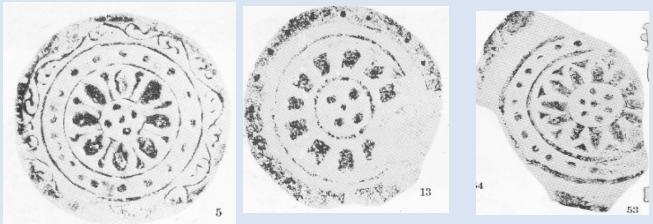
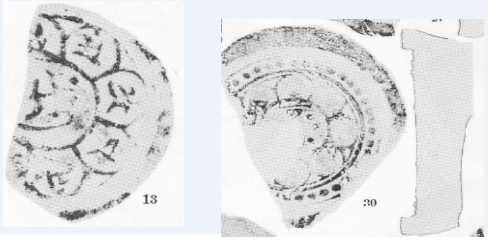


単弁蓮華文軒丸瓦



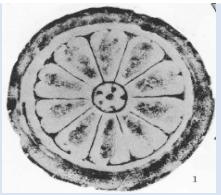
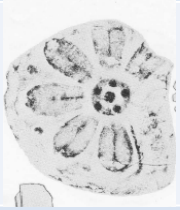
複弁蓮華文軒丸瓦

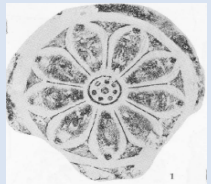
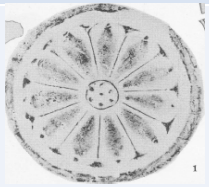
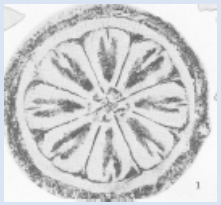
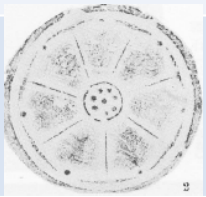
同じ「素弁蓮華文軒丸瓦」でも新しいものがある

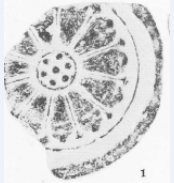
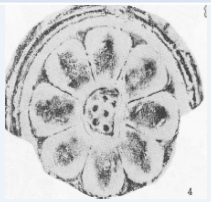
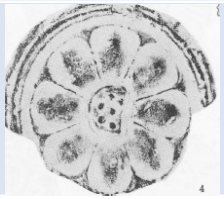
編年	文様	編年の基準
600年前後		シンプルな素弁。
奈良		外縁が幅広、 外縁に珠文や 唐草文が入る。 四角い蓮子もある。
平安		更に外縁が幅広に。
鎌倉		文字・梵字入り が現われる。

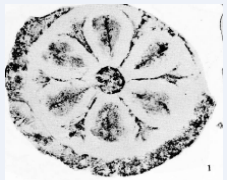
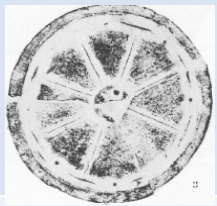
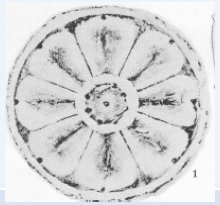
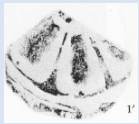
装飾的に変化する

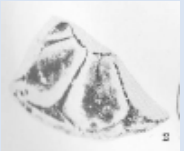
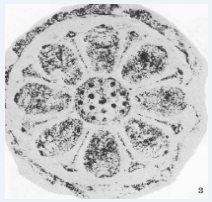
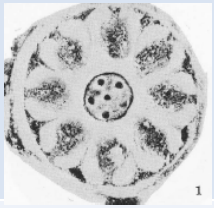
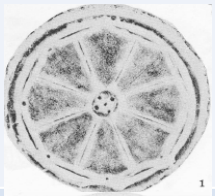
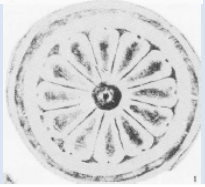
推古三十二年（六二四）の四十六寺に当てはめると、石田氏の基準ではシンプルな「素弁蓮華紋軒丸瓦」を創建瓦とする寺院が該当する。奈良二十五・大阪十一・京都二・三重一・愛知三・岡山一・愛媛二・大分一、合計四十六寺となる。奈良・大阪中心とする分布です。

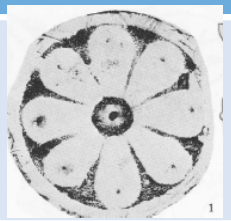
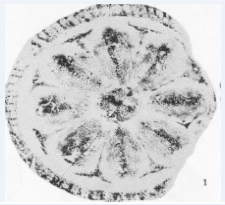
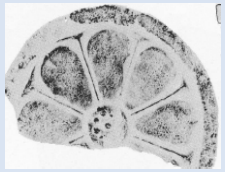
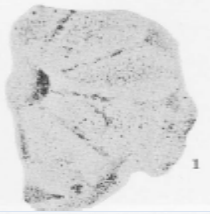
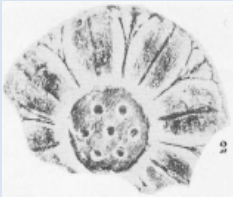
№	寺院址	地域	出土瓦
1	飛鳥寺	奈良県	
2	豊浦寺（向原・小墾田）	奈良県	
3	奥山久米寺	奈良県	
4	坂田寺	奈良県	
5	橘寺	奈良県	

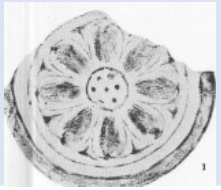
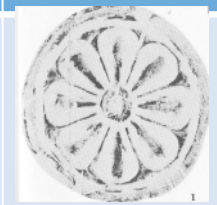
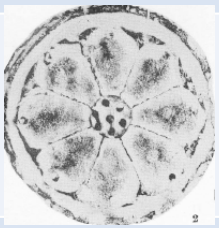
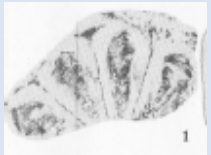
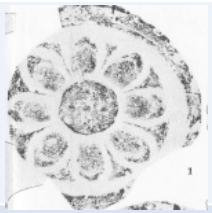
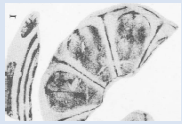
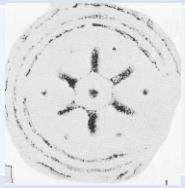
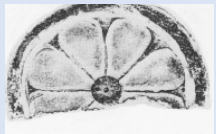
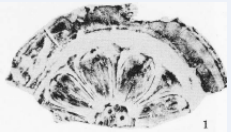
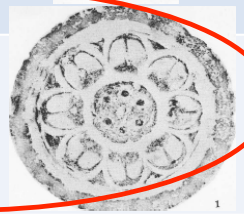
№	寺院址	地域	出土瓦
6	川原寺	奈良県	
7	立部寺	奈良県	
8	軽寺（法輪寺）	奈良県	
9	大窪寺	奈良県	
10	和田廃寺	奈良県	

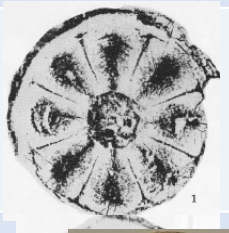
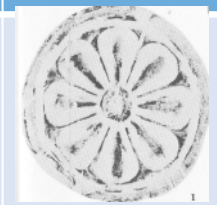
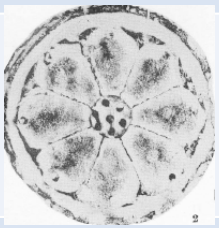
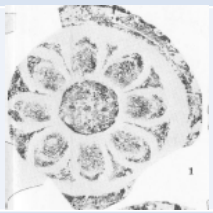
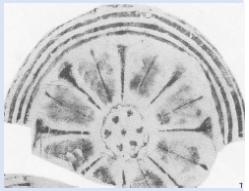
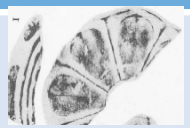
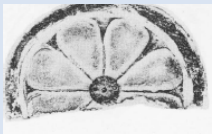
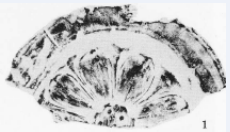
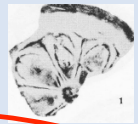
№	寺院址	地域	出土瓦
11	田中廃寺	奈良県	
12	日向寺	奈良県	
13	法隆寺西院若草伽藍含む	奈良県	
14	中宮寺（鵤尼寺）（法興尼寺	奈良県	
15	法起寺（池尻尼寺（岡本寺）	奈良県	

№	寺院址	地域	出土瓦
16	法輪寺	奈良県	
17	熊凝精舎（額安寺）（額田寺）	奈良県	
18	平群寺（平隆寺）	奈良県	
19	片岡王寺（放光寺）	奈良県	
20	西安寺	奈良県	

№	寺院址	地域	出土瓦
21	長林寺	奈良県	
22	巨勢寺	奈良県	
23	比曾寺（吉野寺）	奈良県	
24	横井廃寺	奈良県	
25	豊田廃寺	奈良県	

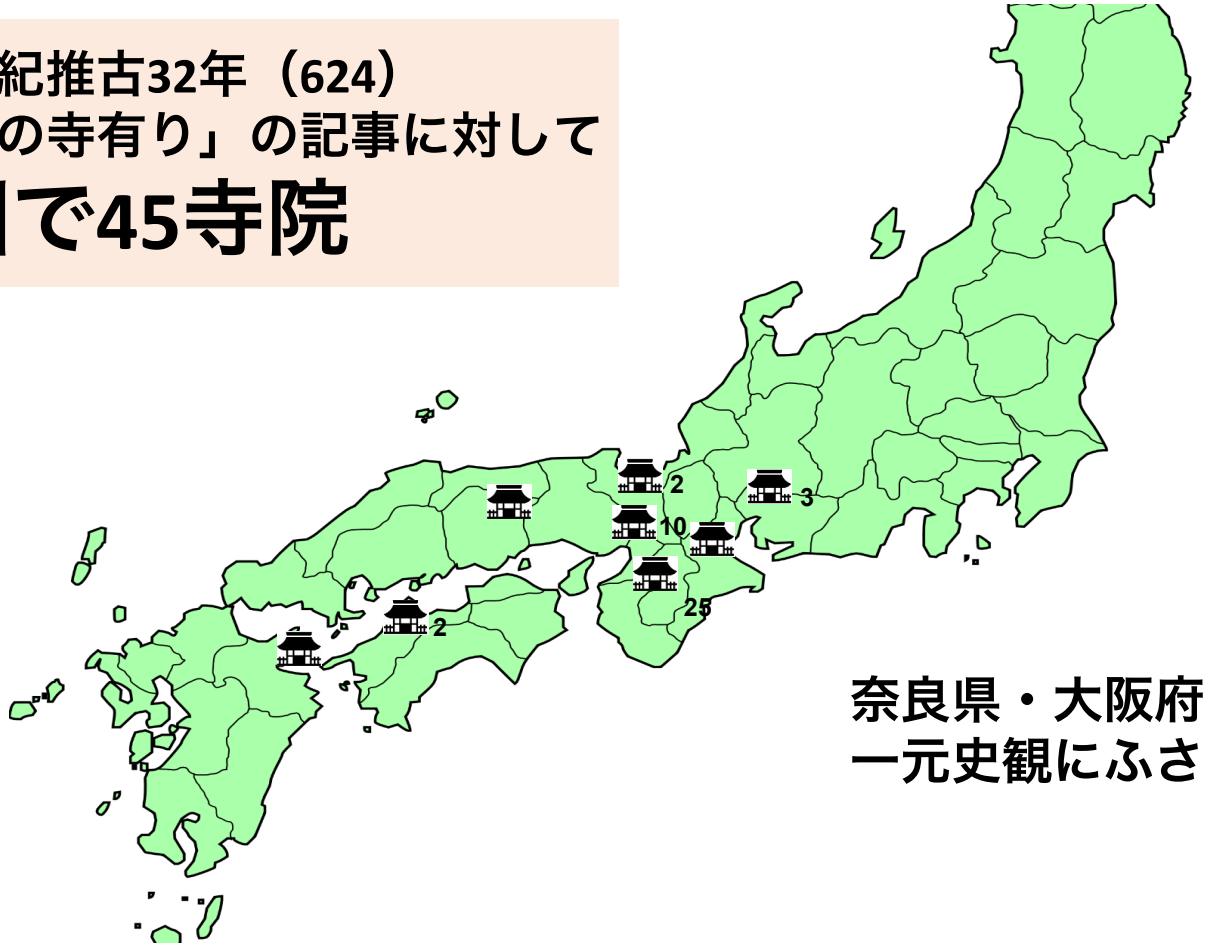
№	寺院址	地域	出土瓦
26	広隆寺（太秦寺）（蜂岡寺）	京都府	
27	八坂寺（法観寺）	京都府	
28	西琳寺	大阪府	
29	新堂廃寺	大阪府	
30	野中寺	大阪府	

№	寺院址	地域	出土瓦
31	衣縫廃寺	大阪府	
32	大県廃寺（大里寺）	大阪府	
33	海會寺	泉南市	
34	禅寂寺	大阪府	
35	池田寺	大阪府	
36	上代観音寺	大阪府	
37	四天王寺	大阪府	
38	堂ヶ芝廃寺	大阪府	
39	三田廃寺	三重県	
40	甚目寺	愛知県	
41	尾頭元興寺	愛知県	
42	北野廃寺	愛知県	
43	秦原寺	岡山県	
44	湯之町廃寺（弥勒寺）	愛媛県	
45	法安寺	愛媛県	
46	法鏡寺	大分県	

№	寺院址	地域	出土瓦
31	衣縫廃寺	大阪府	
32	大県廃寺（大里寺）	大阪府	
33	海會寺	泉南市	
34	禅寂寺	大阪府	
35	池田寺	大阪府	
36	上代観音寺	大阪府	
37	四天王寺	大阪府	
38	堂ヶ芝廃寺	大阪府	
39	三田廃寺	三重県	
40	甚目寺	愛知県	
41	尾頭元興寺	愛知県	
42	北野廃寺	愛知県	
43	秦原寺	岡山県	
44	湯之町廃寺（弥勒寺）	愛媛県	
45	法安寺	愛媛県	
46	法鏡寺	大分県	

石田茂作氏の資料からの「素弁蓮華文軒丸瓦」寺院

日本書紀推古32年（624）
「46所の寺有り」の記事に対して
全国で45寺院



奈良県・大阪府に集中し、
一元史観にふさわしい分布と言える。

２、中国および朝鮮半島における　古代瓦の変遷

『古代造瓦史－東アジアと日本－』山崎信二2011年による

中国の軒丸瓦　文様の変遷

（１）殷の時代に礎石建物が出現していたが、瓦の発明は未だなかった。

（２）周（BC11～10世紀）時代の瓦が発掘されている　陝西省岐山県鳳雛遺跡（平瓦）。

（３）周中期（BC10～9世紀）丸瓦が加わる　陝西省扶風県召陳遺跡。素文・重環文。

（４）春秋（BC8～）時代には半瓦当が出現　陝西省鳳翔県雍城の馬家庄遺跡。

（５）戦国時代、半瓦当で樹木双獣文⇒樹木文と円点文・渦巻文　山東省臨淄県臨淄城出土。

（６）秦・漢、雲文・文字文（富貴万歳・延年益寿・長楽未央）。櫟陽宮・未央宮・桂宮・漢杜陵陵園出土。

（７）五胡十六国（4～5世紀）、日・月・星辰や樹木・蓮弁状の文様。鄴北城出土。

漢民族が長期に使用した雲文を廃し、遊牧民が敬う文様を採用。

北朝

（８）北魏Ⅰ期（～5世紀中葉）、文字文（萬歳富貴）。

（９）北魏Ⅱ期（470・480年代）、文字文（傳祚無窮）、蓮華文・複弁蓮華文が出現。

中房は半球状で外区に珠文帯を有するものもある　雲崗。

（10）北魏Ⅲ期（491～493年）、獣面文が新たに加わる　北魏洛陽城。

北朝

（11）北魏洛陽期前半（493～515年）、複弁蓮花文・獣面文　北魏洛陽城1号房址出土。

（12）北魏洛陽期後半（516～534年）、獣面文・素弁／複弁蓮華文・忍冬文　永寧寺。

（13）東魏（534～577年）、**ほとんどが素弁蓮華文に統一**されている　鄴南城・鄴北城。

南朝・素弁蓮華文

⑧　南朝、雲文および人面文は呉から西晋（229～316年）、獣面文は東晋時代。

⑨　南朝宋（420～479年）間弁の表現が入念な**素弁蓮華文**　南京三山街・鐘山南朝祭壇遺跡。

——　私見：**南朝ではこの時期に蓮華文が発生したと言って良いのではないか。**——

⑩　南朝梁（502～557年）蓮弁を縁取りするもの、外縁に**唐草文**を入れるものが多くなる。弁端切込式もあらわれる　蕭偉墓闕遺跡。

⑪　南朝陳（557～589年）弁端が針状になり間弁がＴ字形に簡略化するもの、蓮弁の端が切込んで間弁が扇形になって蓮弁の輪郭線とつながるものが主体。

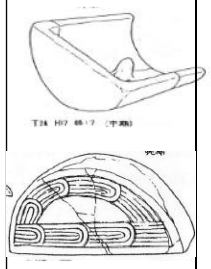
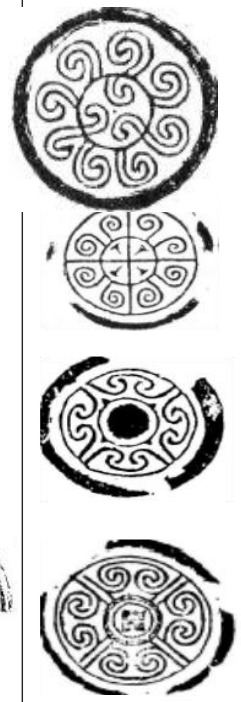
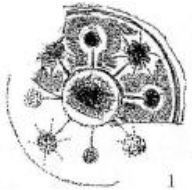
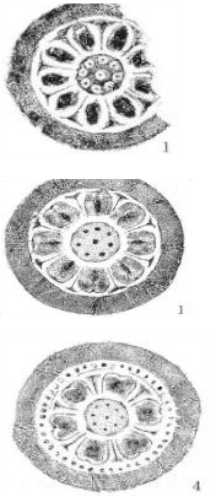
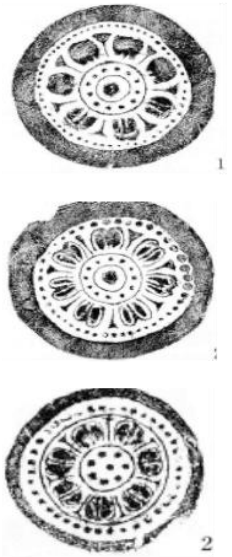
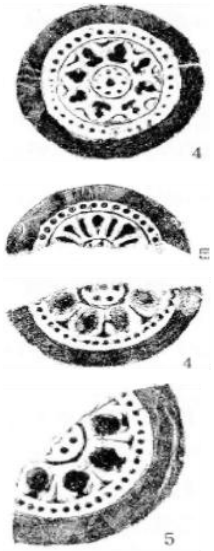
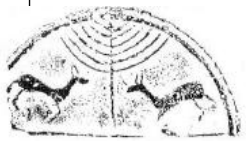
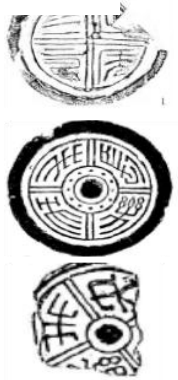
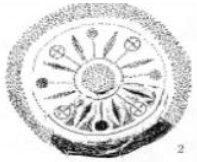
（14）隋（595～618年）有子葉の**単弁・複弁蓮華文**、外区内縁に**珠文帯**と蓮弁の間に界線をもたない。珠文数が40を超える　仁寿宮（九成宮）。

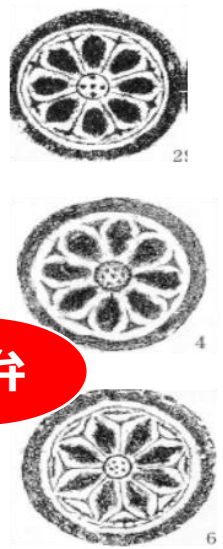
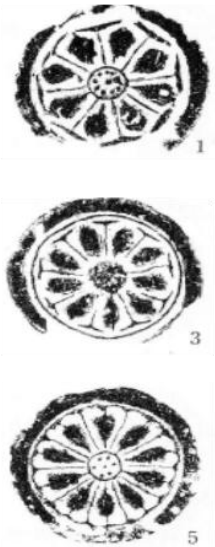
（15）唐（630～650年）複弁蓮華文、外区内縁の珠文帯と蓮弁の間に界線　九成宮。

中国の軒丸瓦　文様の変遷

殷　周　春秋戦国　秦・漢　魏・晋　五胡十六国　北朝

礎石建物が出現するが、瓦は無し。

BC10～9	BC8～	BC3～2 世紀	3 世紀	4～5 世紀	北魏～490	493～534	東魏 534～577	595～618	630～650
									
素文 重環文	半瓦当： 馬家庄遺跡	樹文 双獣文	雲文	日・月・星辰	装飾素弁 複弁出現	鄴南・北城		隋仁寿宮	九成宮 大明宮含元殿
			洛陽城		蓮華文				
	半瓦当 樹木 双獣文： 臨淄城	文字文		樹木・蓮？					
				：鄴北城					

宋 420～479	梁 502～557	陳 557～589
		
素弁		
南京三山街	蕭偉墓闕遺跡	南京出土

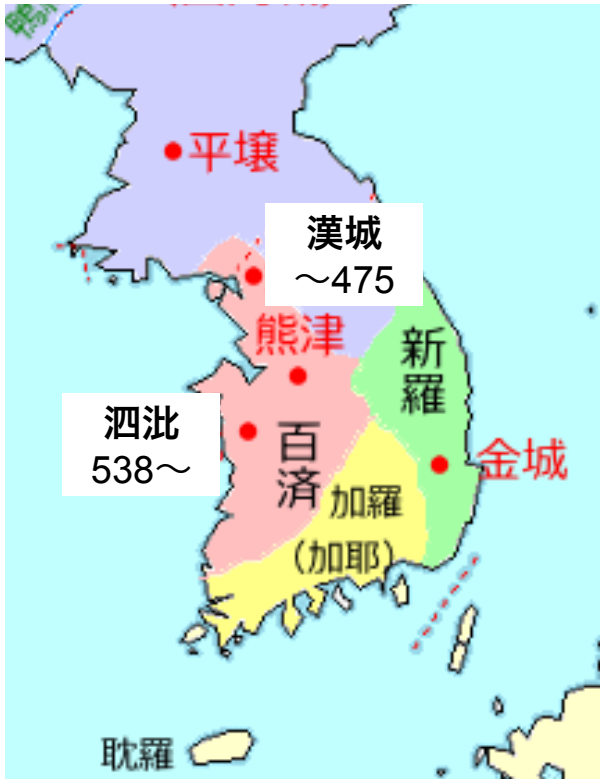
南朝

隋・唐

2、中国および朝鮮半島における　古代瓦の変遷

『百済軒丸瓦の製作技法』亀田修一氏（「古代瓦研究I」奈文研2000年に収録）による

百済の軒丸瓦　文様の変遷



（1）百済では漢城時代（～475年）に瓦の使用が始まる。
ソウル石村洞4号墳・夢村土城

漢城時代

（2）512年公州宋山里6号墳出土文様塼（せん）に
「梁の官瓦を以て師となす」とある。

熊津時代

（3）527年創建の公州大通寺と同文の鳳凰洞出土、
・扶余双北里寺跡・軍守里寺跡出土瓦がある。

（4）扶蘇山城出土の**素弁蓮華文軒丸瓦**は、588年に倭国に渡った
瓦博士が伝えたものと考えられる。

泗沘時代

（5）600～632年、武王が南方へ勢力拡大するため発展させた
益山（いくさん）地域は、別都説・副都説もある。

南進時代

弁の端が切込んだもの、蓮子配列が2重：王宮里寺跡・弥勒寺跡
忍冬蓮華文：帝釈寺跡、**蓮弁に稜線を入れるもの**：金剛寺跡など。

（6）660年滅亡の頃、**中房の周りに蘂**（しべ）を表現したもの
県北里瓦窯跡が出てくる。

百済の軒丸瓦　文様の変遷

漢城時代

475年

熊津時代

500年

538年

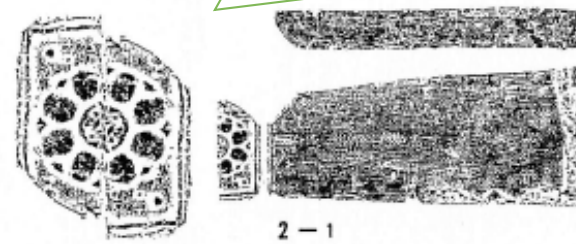
泗沘時代

600年

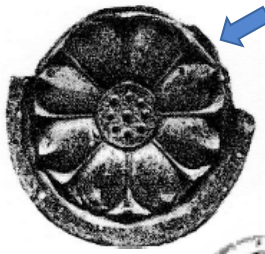
660年滅ぶ

石村洞4号墳

512年公州宋山里6号墳出土文様塼（せん）



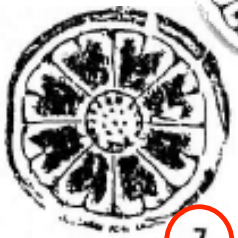
538年遷都初期：双北里寺跡



扶蘇山城出土。
596年飛鳥寺の創建瓦
の元になったとされる。

王宮里寺跡

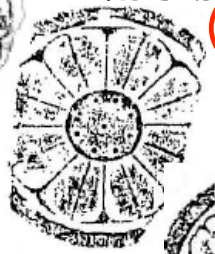
6



7

益山地域：武王による南下で
できた遺跡、620～630年

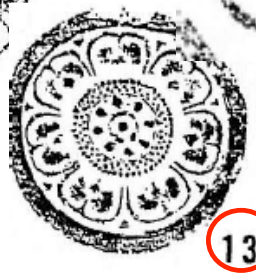
金剛寺跡



11

12

14



13 県北里瓦窯

15 帝釈寺跡

七世紀に入ると、
- 蓮弁の端に切込み⑦
- 2重蓮子配列⑦
- 忍冬蓮華文⑮
- 蓮弁に稜線⑪

660年滅亡の頃、
- 中房に蘂（しべ）⑬

百済の軒丸瓦　文様の変遷

漢城時代

475年

熊津時代

500年

538年

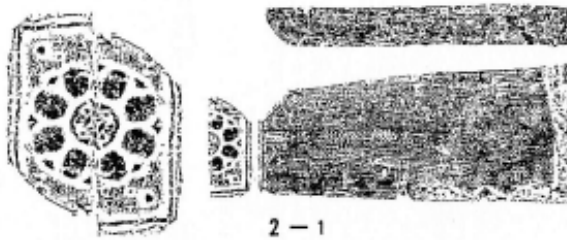
泗沘時代

600年

660年滅ぶ

石村洞4号墳

512年公州宋山里6号墳出土文様塼（せん）



亀田修一氏『百済軒丸瓦の製作技法』
6世紀代のシンプルで整った素弁蓮華文が、600年前後を境にして、蓮弁や中房に変化が起こった。

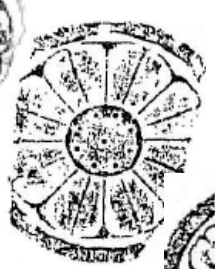
扶蘇山城出土。
596年飛鳥寺の創建瓦の元になったとされる。

山崎信二氏
『古代造瓦史東アジアと日本』
弥勒寺造営最終段階（624～635年）に至って、百済瓦としては、意匠上の大変化がある。

6

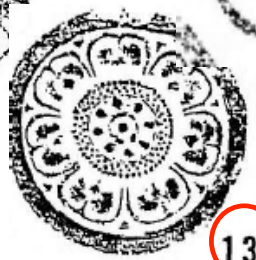
7

王宮里寺跡



11

金剛寺跡



13 県北里瓦窯

12

14

益山地域の瓦

15 帝釈寺跡

七世紀に入ると、
- 蓮弁の端に切込み⑦
- 2重蓮子配列⑦
- 忍冬蓮華文⑮
- 蓮弁に稜線⑪

660年滅亡の頃、
- 中房に蘂（しべ）⑬

瓦の変遷のおさらい　中国⇒百済⇒倭国

皇龍寺の瓦を見ると、
新羅も百済同様と見れる。

（１）**中国**殷の時代に礎石建物、周の時代に瓦が発明される。
（２）南朝宋（５世紀）に**素弁蓮華文**、北魏（５世紀後半）に**複弁蓮華文**が出現。
　　東魏（534～577年）ほとんどが**素弁蓮華文**になる。
（３）隋（595～618年）以降、単弁・複弁蓮華文、加えて**珠文など装飾**が入る。

（４）**百済**では（５世紀後半）瓦の使用が始まり、泗沘時代（６世紀）は**素弁蓮華文**。
（５）武王時代（７世紀前半）に入ると、蓮子２重配列や忍冬文、蓮弁に稜線など、
　　滅亡の頃には中房蘂（しべ）などの装飾が出てくる。

（６）**倭国**では、
　　素弁蓮華文（600年前後）⇒単弁（7世紀中葉以降）⇒複弁（7世紀後半以降）

1、古代瓦の変遷と飛鳥寺院　ー　古代寺院の創建年代は瓦から推察される
「素弁蓮華文軒丸瓦」が出土すれば600年前後の創建

日本書紀推古32年（624）「46所の寺有り」に対して、石田氏の基準では
シンプルな「素弁蓮華紋軒丸瓦」を創建瓦とする寺院が該当する。

これを同文献より抽出すると、
奈良25・大阪11・京都2・三重1・愛知3・岡山1・愛媛2・大分1の合計45寺となる。
奈良・大阪中心とする分布です。

これ以外にシンプルな「素弁蓮華文軒丸瓦」を創建瓦とする寺院は無いのか？

「素弁」なら、600年前後の創建のはず。
⇒**しかし地方での出土は無視。**

学芸員の説明
「地方だから遅れて伝播した」
「文様も稚拙です」

東京：武蔵国分寺

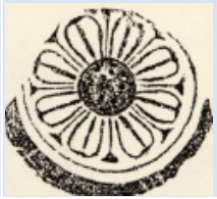
福島：清水台遺跡

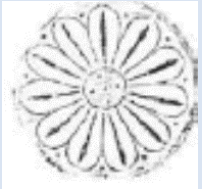
大宰府：大野城

全国に分布する「素弁蓮華文」

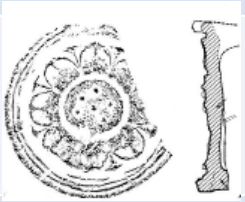
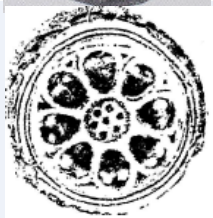
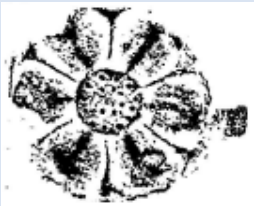
№	寺院址	地域	出土瓦	出典
1	清水台遺跡	福島県安積		福島県教育委員会『ふるさと郡山の歴史』
2	腰浜廃寺	福島県福島市		福島市教育委員会福島市文化財調査報告
3	武蔵国分寺	東京都		Atusisugoiのブログ
4	法興寺跡岩熊廃寺	千葉県		千葉県文化財センター研究紀要第18号
5	安房国分寺	千葉県館山		同上

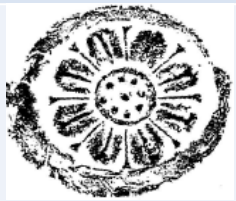
№	寺院址	地域	出土瓦	出典
6	木内廃寺跡	千葉県香取郡		千葉県文化財センター研究紀要第18号
7	寺内古代寺院跡	埼玉県熊谷市		熊谷市Ｗｅｂ博物館
8	山王廃寺(放光寺)	群馬県		群馬県埋蔵文化財調査事業団のサイト
9	善光寺	長野県	素弁式蓮華文の変化した鐙瓦	米山一政「信濃出土の古瓦再論」『中部高地の考古学』
10	光寿庵跡	岐阜県高山市	素弁8弁	

№	寺院址	地域	出土瓦	出典
11	大虫廃寺	福井県 武生市		『福井県史』 通史編1
12	古新田 遺跡 北野廃寺	愛知県		西尾市古新田遺跡 出土瓦の再検討、 2004、小嶋廣也 伝推古2年（594）
13	古新田 遺跡 寺領廃寺	愛知県		名古屋市守山区 公式サイト
14	鳳凰寺 廃寺	三重県		エナガ先生の 講義メモブログ
15	姫寺廃寺	奈良県		森郁夫 『続・瓦と古代 寺院』1993年

№	寺院址	地域	出土瓦	出典
16	長宝寺跡	大阪府 交野市		交野市広報サイト
17	船橋廃寺	大阪府 藤井寺		
18	新部大寺 廃寺	兵庫県 小野市		『むくげ通信』 267 2014年11月
19	宝寿寺跡	香川県		名古屋大学文学部 研究論集（史学） 『讃岐地域における 寺院選地』梶原義実
20	妙音寺跡	香川県		

№	寺院址	地域	出土瓦	出典
21	慶徳廃寺	広島県 福山市		福山市しんいち歴史民俗資料館
22	寺町廃寺	広島県 三次市		
23	天台寺跡	福岡県 田川市		苅田町歴史資料館『律令時代と豊前国』2010年（永嶺正秀氏）
24	椿市廃寺	福岡県 行橋市		同上
25	木山廃寺	福岡県 京都郡		同上

№	寺院址	地域	出土瓦	出典
26	垂水廃寺	福岡県 上毛郡		苅田町歴史資料館『律令時代と豊前国』2010年（永嶺正秀氏）
27	上坂廃寺	福岡県 築城郡		同上
28	相原廃寺	大分県 下毛郡		同上
29	観世音寺	福岡県 太宰府		九州歴史資料館 下原幸裕氏の発掘調査速報『大野城跡クロガネ岩城門出土の軒丸瓦』
番外	国分松本遺跡 大宰府政庁I期 政庁跡	福岡県 太宰府		同上

№	寺院址	地域	出土瓦	出典
番外	大宰府 月山地区 日吉地区	福岡県		九州歴史資料館 下原幸裕氏の発掘調査速報『大野城跡クロガネ岩城門出土の軒丸瓦』
番外	大宰府政庁I期 日吉地区	福岡県		同上
番外	大野城 主城原地区の掘立柱建物跡	福岡県		九州歴史資料館
番外	那珂遺跡 13次地点遺跡	福岡県		福岡市 埋蔵文化財調査報告書第222集、1990年
番外	基肄城	佐賀県		基山町教育委員会

たくさんあった！しかし、

北九州の考古学者は「素弁」を「百済系」とし、7世紀後半の瓦としてきた。

畿内坂田寺の素弁瓦が、基肄城造営（665年）に入り、これが垂水廃寺・相原廃寺・椿市廃寺・上坂廃寺・木山廃寺や国分寺などに広がり、法鏡寺・弥勒寺にも広がった。少なくとも665年以降だ。（永嶺正秀氏）

専門家の説明「660年代の百済滅亡後、百済人が渡来し伝えた」

百済系単弁瓦は大野城跡・基肄城跡などを中心に分布する。出土遺物などから、当寺院跡は七世紀末に創建された。（永嶺正秀氏）

百済の軒丸瓦　文様の変遷

660年代の百済滅亡後、亡命した百済人が渡来し伝えたとすれば、意匠上の大変化があった後の瓦文様が伝わったはず。
**　しかし、北九州の考古学者が「百済系」単弁蓮華文と称するものは、600年前後の素弁蓮華文である。**

漢

時代

500年

538年遷都初期：双北里寺跡

扶蘇山城出土。

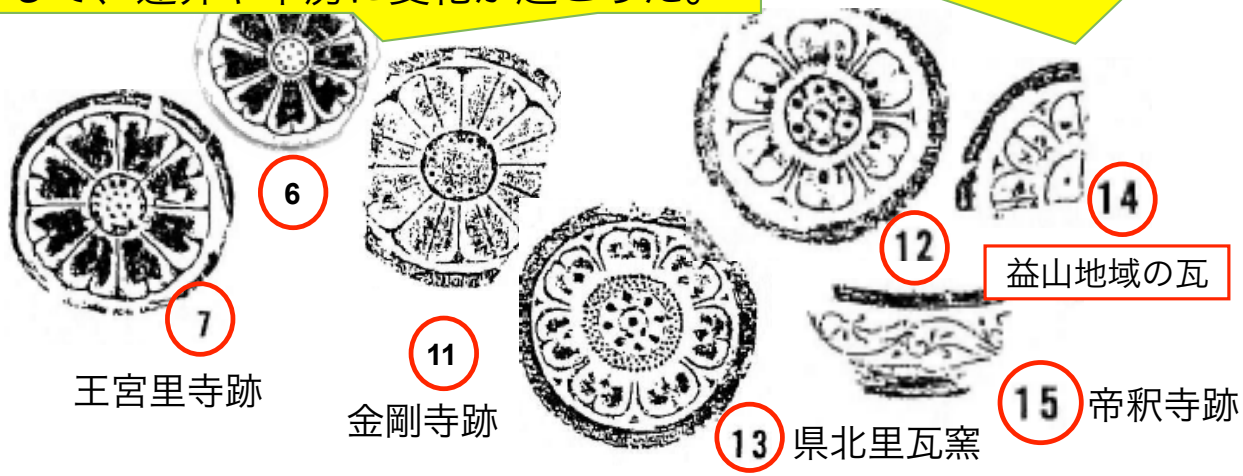
538年

泗沘時代

亀田修一氏『百済軒丸瓦の製作技法』
6世紀代のシンプルで整った素弁蓮華文が、600年前後を境にして、蓮弁や中房に変化が起こった。

山崎信二氏『古代造瓦史東アジアと日本』
弥勒寺造営最終段階（624～635年）に至って、百済瓦としては、意匠上の大変化がある。

600年



王宮里寺跡

金剛寺跡

県北里瓦窯

帝釈寺跡

七世紀に入ると、
- 蓮弁の端に切込み⑦
- 2重蓮子配列⑦
- 忍冬蓮華文⑮
- 蓮弁に稜線⑪

660年滅亡の頃、
- 中房に蘂（しべ）⑬

660年滅ぶ

全国に分布する「素弁蓮華文」

素弁蓮華文軒丸瓦が出土すれば600年前後の創建

ところが例外がある

例外１、同じ「素弁」でも新しいものがある。
ファッションで言えば「リバイバル」

例外２、九州や関東の地方で素弁が出土すれば、地方だから後の時代のものとする。
ファッションで言えば「型落ち」

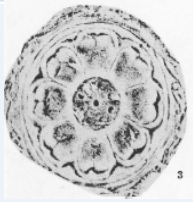
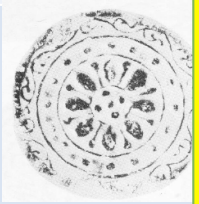
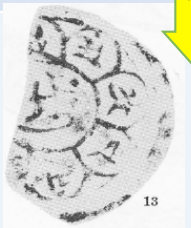
- **工人や見本が無ければ、再現できないデザイン**
- **ファッション等で、地方の「型落ち」は数年の遅れ**

地方だからと言っても数十年も遅れない。

実際の蓮の華

大胆にデフォルメされたデザイン

蓮華文

編年	文様	編年の基準
600年前後		**シンプルな素弁。**
奈良		外縁が幅広、外縁に珠文や唐草文が入る。四角い蓮子もある。
平安		更に外縁が幅広に。
鎌倉		文字・梵字入りが現われる。

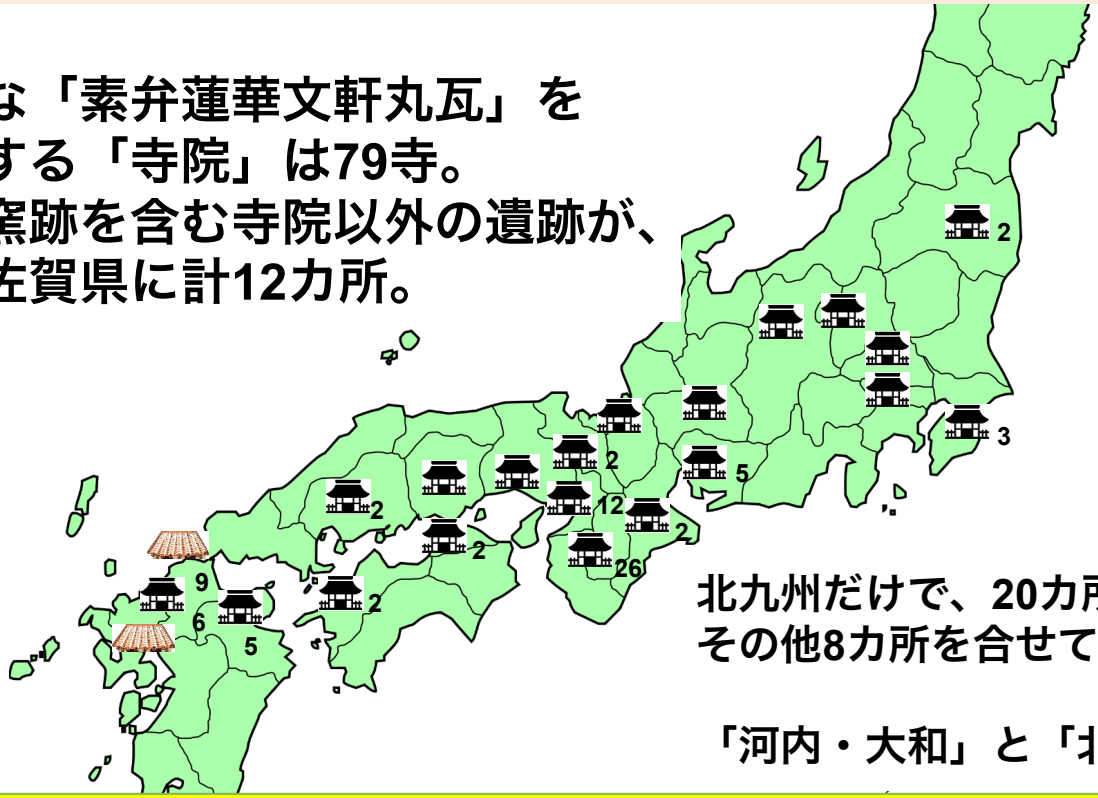
アレンジを加えたリバイバル

全国に分布する「素弁蓮華文」

デザイン・流行・リバイバル
と言う見方で整理すると、

全国に分布する素弁瓦は、600年前後に全国に寺院が建立されたことを示す。

シンプルな「素弁蓮華文軒丸瓦」を
創建瓦とする「寺院」は79寺。
加えて、窯跡を含む寺院以外の遺跡が、
福岡県・佐賀県に計12カ所。



北九州だけで、20カ所の寺院と4カ所の窯跡、
その他8カ所を合せて合計32カ所で出土。

「河内・大和」と「北九州」が２大中心地

6世紀末～7世紀初頭にかけて同じ文様の瓦を持つ寺院が、全国一斉に建造される。
⇒**国家権力の意図的政策**と考えるのが妥当。

全国に分布する「素弁蓮華文」

私の仮説

6世紀末～7世紀初頭にかけて同じ文様の瓦を持つ寺院が、全国一斉に建造される。
⇒**国家権力の意図的政策**と考えるのが妥当。

「河内・大和」と「北九州」が２大中心地

この倭国の政策意図が、
十七条憲法にあらわれる。

１、篤く三宝を敬え。
２、国に二君非ず。
３、地方官への訓示。

天子＝菩薩

九州を本拠地にしていた倭国が、七世紀になると、全国を直轄統治のために東進。
隋の「仏教治国策」に倣った東進。

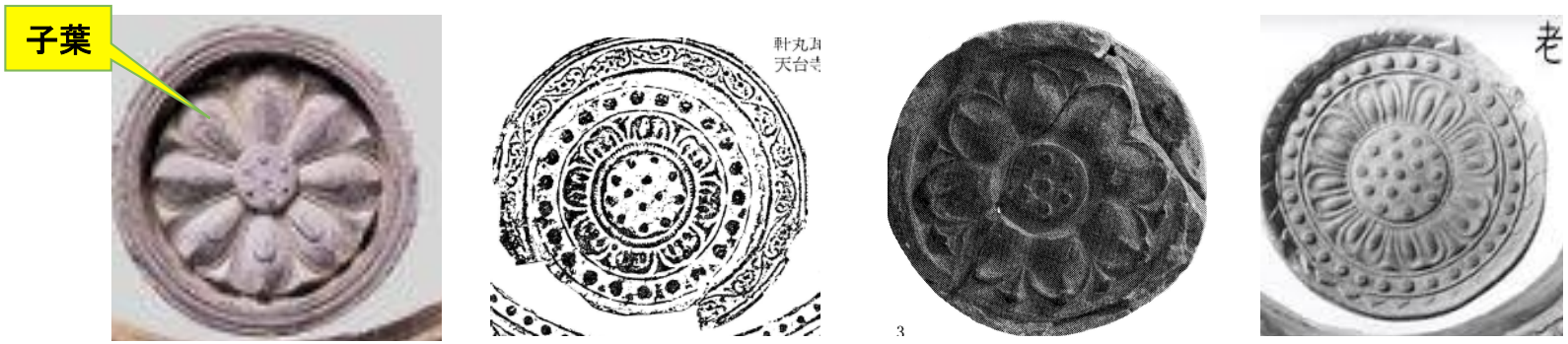
５分間休憩します。

３、北九州の七世紀瓦編年に異論を呈する

（１）小田富士雄氏の古瓦分類
　小田富士雄氏（1966・1975・1977）によると、九州の初期寺院から発見される古瓦は大別して３つの系統（実質４系統）に整理できるとする。この内、軒丸瓦に注目すると、

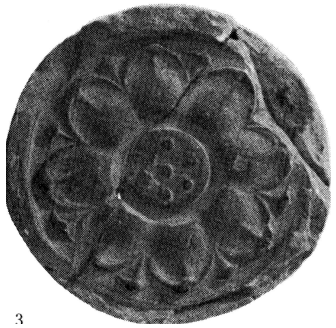
（イ）畿内系古瓦もしくは山田寺系重弁文瓦　　（石田氏の分類では単弁蓮華文軒丸瓦）
（ロ）朝鮮系古瓦の新羅系古瓦　　（石田氏の分類では複弁蓮華文軒丸瓦）
（ハ）**百済系単弁軒丸瓦**　　（石田氏の分類では素弁蓮華文軒丸瓦）
（ニ）太宰府系古瓦の老司式と鴻臚館式　　（石田氏の分類では複弁蓮華文軒丸瓦）

（図１）左より順にイ・ロ・ハ・ニ　いずれも軒丸瓦の瓦当



ここでは先ず、この内（ハ）の百済系単弁軒丸瓦を取上げる。
これは（イ）の畿内系古瓦つまり単弁蓮華文軒丸瓦の弁中の子葉の無いものであって、
石田氏の分類では素弁蓮華文軒丸瓦（図版１に出土寺院跡と代表的な瓦当写真を示す）にあたると考えられる。

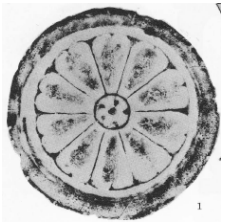
（ハ）百済系単弁蓮華文



（イ）畿内系古瓦

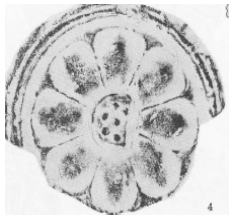
（図版１）素弁蓮華文軒丸瓦『飛鳥時代寺院址の研究』石田茂作、1977年復刻より）
推古紀32年（624）「４６寺有り」の記事より、飛鳥時代（天智期まで）の寺院特定を目指した研究。
その結果、58寺を報告されたが、その中で素弁蓮華文軒丸瓦の出土に限定すると46寺であった。

1、飛鳥寺（法興寺）



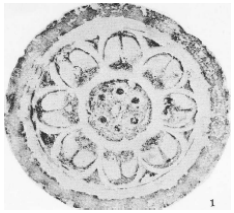
2、豊浦寺（向原）

15、法起寺（池尻尼寺）



16、法輪寺

46、法鏡寺（大分県）



（ハ）百済系単弁軒丸瓦の出土分布は豊前北部から筑前、筑後、肥前・豊後まで広がる。

この百済系単弁軒丸瓦は百済滅亡のさいに帰化した百済人の指揮により天智４年（665）築城
された大野城、基肄城を契機に九州に流入し、
古期のものは豊前地域に集中してみられ、八世紀を最後に消滅するとする。合計32カ所で出土している。

百済系単弁軒丸瓦の出土遺跡と代表的な瓦当写真

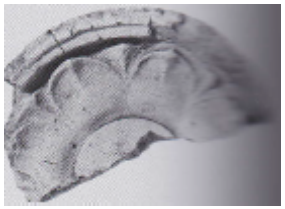
塔ノ塚廃寺（小田稿）

伊藤田窯跡（小田稿）

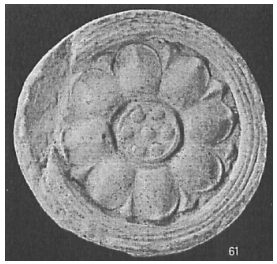
椿市廃寺（行橋市）

木山廃寺（京都郡）

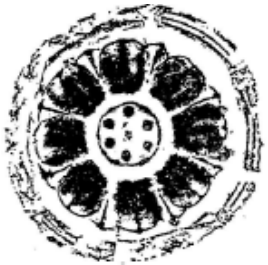
垂水廃寺（上毛郡）



那珂遺跡（福岡市）



観世音寺（下原稿）



大野城主城原地区

基肄城

杉塚廃寺

小田氏が挙げる根拠

（１）中山平次郎氏は出土当初から「百済滅亡の際に帰化した百済人の指揮によって天智4年築城された大野城、基肄城を契機に九州に流入した」とし、七田忠志氏は「築城の際に大和よりの技術導入により造られた」としたのだが、小田氏もこの立場をとる。

（２）単弁瓦の初期文様が豊前および基肄城で出土するが、豊前諸廃寺の創建を奈良前期を下らない。

①弥勒神功寺（宇佐市）東塔建立は益永家記録より天平15年（743）とみられる。

②法鏡寺（宇佐市）の軒平瓦の文様は白鳳期。（石田氏は飛鳥時代とみる）

③相原廃寺（中津市）・垂水廃寺（築上郡）は弧文軒平瓦とのセット、

垂水廃寺・豊前国分寺・椿市廃寺（行橋市）では新羅系瓦と共に出土する。

国分寺は続日本紀の天平13年（741）、異論はあっても天平9年（738）の建立と考えられる。

弥勒神宮寺では鴻臚館系と共に出土し、

上坂廃寺（京都郡）でも老司系と共に出土する。

観世音寺（太宰府市）でも老司系・鴻臚館系と共に出土し、

杉塚廃寺（築紫野市）でも鴻臚館系と共に出土し、

大願寺（佐賀市）でも老司系・鴻臚館系と共に出土し、

晴気（はるけ）**廃寺（佐賀）では鴻臚館系と老司系の変形と共に出土し、**

井上廃寺（小郡市）では山田寺系と老司系・新羅系と共に出土し、

冠（浮羽）では鴻臚館系と共に出土し、

永興（りょうご）**寺（大分市）では鴻臚館系の変形とみられる瓦と、**

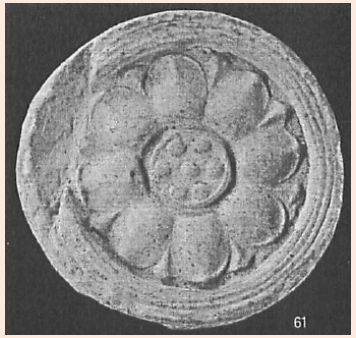
いずれも七世紀後半以降のものとみられる各系統の瓦と共に出土する。

小田氏が挙げる根拠

（３）**九州の百済系単弁瓦は、飛鳥地方の初期寺院にみられる百済系瓦（素弁）とやや異なった様式を持つ。その特徴を次に挙げる。**

・中房に７顆の蓮子
・弁と中房間の溝が深い
・弁は８葉又は７葉で、弁の先端の両側に凹みがある
・弁間に楔形の小葉がある
・周縁が幅広く直角に高く隆起している
・重圏文あるいは唐草文が特徴である。

木山廃寺（京都郡）



那珂遺跡（福岡市）

（４）百済泗沘城時代の瓦当周縁は素文に終始しているが、
畿内では七世紀後半になると軒丸瓦の周縁、軒平瓦に重弧文が登場する。
そこから九州式単弁瓦当は畿内の白鳳期瓦当を経由していると言える。

小田氏の根拠を検証する

（１）中山平次郎氏は「百済滅亡の際に帰化した百済人の指揮によって天智4年築城された
大野城、基肄城を契機に九州に流入した」とし、
七田忠志氏は「築城の際に大和よりの技術導入により造られた」としたのだが、

小田氏もこの立場をとる。
「百済滅亡の際に帰化した百済人の指揮によって天智4年築城された大野城、
基肄城を契機に九州に流入した」、
「築城の際に大和よりの技術導入により造られた」とする。

考古学での暦年代基準は、文献では無く考古学知見に求めるべきと考える。

『日本書紀』天智紀期の水城・大野城・基肄城建設記事の年次は怪しい。
須恵器の編年・年輪年代法での考古学知見からは、少なくとも白村江戦以前と見られる。

小田氏の根拠を検証する

（２）相原廃寺（中津市）・垂水廃寺（築上郡）は弧文軒平瓦とのセット、
垂水廃寺・豊前国分寺・椿市廃寺（行橋市）では新羅系瓦と共に出土する。
弥勒神宮寺では鴻臚館系と共に出土し、上坂廃寺（京都郡）でも老司系と共に出土する。
観世音寺（太宰府市）でも老司系・鴻臚館系と共に出土し、杉塚廃寺（築紫野市）でも鴻臚館系と共に出土し、大願寺（佐賀市）でも老司系・鴻臚館系と共に出土し、晴気（はるけ）廃寺（佐賀）では鴻臚館系と老司系の変形と共に出土し、井上廃寺（小郡市）では山田寺系と老司系・新羅系と共に出土し、冠（浮羽）では鴻臚館系と共に出土し、永興（りょうご）寺（大分市）では鴻臚館系の変形とみられ、いずれも七世紀後半以降のものとみられる各系統の瓦と共に出土する。

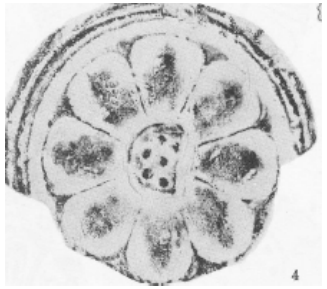
・瓦は通常50～100年、場合によってはより短期間に朽ちるもので、その都度瓦の葺替えがされる。

・石田氏の方法では、**同じ遺跡で複数の様式瓦が出土する場合、もっとも古い様式を創建瓦とする。**
対して小田氏の方法では、**創建時に複数の文様の瓦を取り混ぜて葺いた**とする。

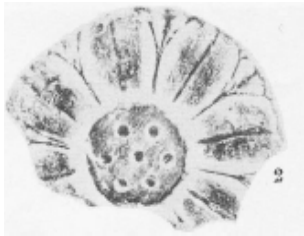
・観世音寺では創建瓦とされる老司式瓦の出土層の下層で42点の素弁瓦が出土している。
下原幸裕氏（2014）はこれを「本格的な伽藍完成までの仮設建物か？」とする。
このような想定をするからには明らかに年代差があるものと見られる。

（３）九州の百済系単弁瓦は、飛鳥地方の初期寺院にみられる百済系瓦（素弁蓮華文軒丸瓦）とやや異なった様式を持つ。その特徴を次に挙げる。

・中房に７顆の蓮子　・弁と中房間の溝が深い　・弁は８葉又は７葉で、弁の先端の両側に凹みがある。
・弁間に楔形の小葉がある　・周縁が幅広く直角に高く隆起　・重圏文あるいは唐草文が特徴である。



法起寺（奈良県）



野中寺（大阪府）

法輪寺（奈良県）

飛鳥寺：素弁10弁1枚、素弁11弁2枚、素弁16弁1枚、素弁8弁2枚
豊浦寺：素弁8弁8枚、素弁9弁1枚、素弁10弁1枚、素弁12弁1枚
等々

小田氏の根拠を検証する

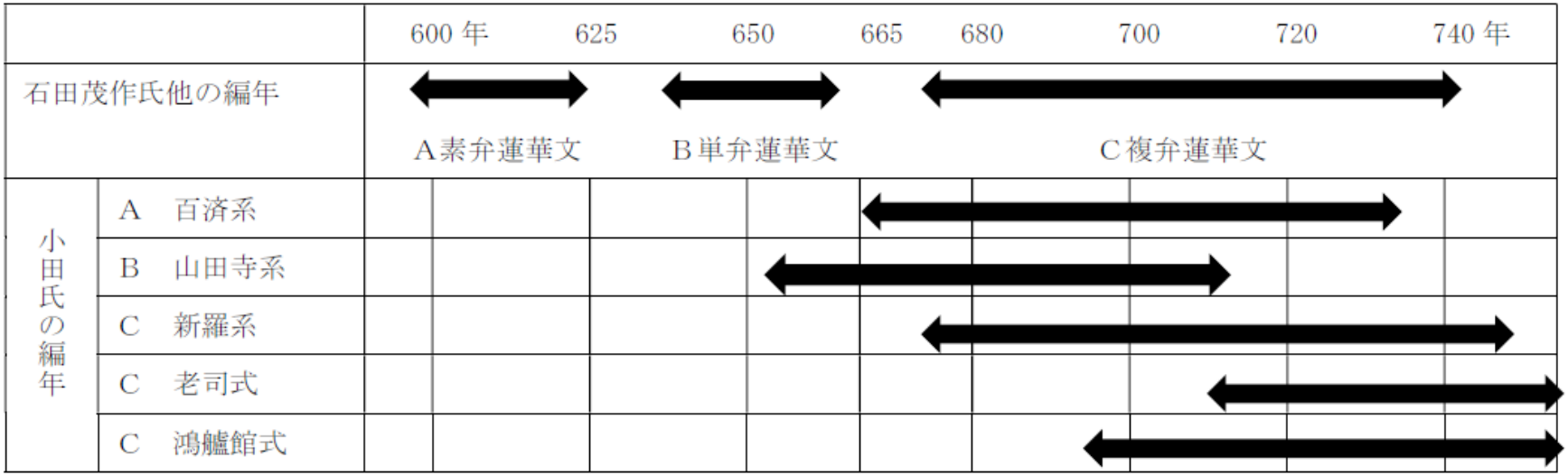
小田氏があげた特徴は、いずれも畿内の素弁蓮華文の多くの系統の中に含まれる特徴である。

重圏文は622年創建説のある奈良県斑鳩の法輪寺や法起寺に見られる。
小田氏は「百済泗沘城時代の瓦当周縁は素文に終始している」とするが、
当時の中国および朝鮮半島に拡げても重圏文は見られない。
故に我が国独自の文様である可能性がある。
しかし、畿内から北九州に伝播したと判断できる根拠とはならない。
百済系単弁瓦を七世紀後半と編年したためにこの見方になったのであろう。

3、北九州の七世紀瓦編年に異論を呈する

（1）畿内で出土すれば、それぞれ以下のように編年される軒丸瓦文様であるが、
A、百済系軒丸瓦＝素弁蓮華文は七世紀前半（600年前後～625年頃まで）、
B、山田寺系重弁文瓦＝単弁蓮華文は七世紀中葉、
C、新羅系・老司系・鴻臚館系＝複弁蓮華文は七世紀後半以降と編年される。

これを、小田氏は先にあげた理由で白村江戦以後に編年する。具体的には、
つまり、畿内で時期を隔てて流行した３種の瓦様式が、
小田氏によると北九州では七世紀後半から八世紀にかけて、ほぼ同時期に流行したという判断になる。

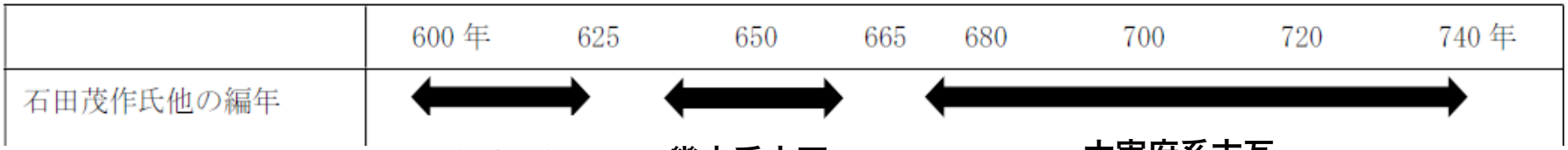


3、北九州の七世紀瓦編年に異論を呈する

（2）しかし、小田氏の根拠は全て否定された。
一番の疑問は、多くの寺院跡で複数の創建瓦があったとする見方である。

百済系を素弁蓮華文と判定し、石田氏の方法で編年すれば、このような矛盾は生じない。

（3）石田氏の編年を該当させると、**七世紀前半において北九州一円に素弁蓮華文軒丸瓦を創建瓦とする寺院が多く存在したことになる。この時期、大宰府政庁・大野城・基肄城もこの時期に建造が進んでいた。**



石田氏の方法で再検討した九州の瓦文様編年案

百済系単弁瓦

那珂遺跡
大野城
基肄城
大宰府政庁I期
椿市廃寺
木山廃寺
垂水廃寺
相原廃寺等々

畿内系古瓦

井上廃寺
北薬師堂遺跡
上白水遺跡
塔ノ原廃寺
渡鹿遺跡

大宰府系古瓦